川越市次世代育成支援対策地域協議会からの意見（平成23年1月26日）

資料2

基本目標1：子どもと親の豊かな健康づくりの推進

1－（1）子どもと親の健康の確保・増進

No.	事業名	所管課	地域協議会からの意見	所管課の回答・意見
3	乳幼児健診	健康づくり支援課	・午後に実施されているようだが、子どもが眠りたい時間になったりして、正常な状態で診てもらえない事もある。例えば13時～15時の間で時間を選べるような形であるとよい。 ・視力検査については家でやっていた結果を、どうであったか聞かれるだけである。具体的な方策を考えてほしい。 ・駐車場や会場が混んでおり、時間がかかりすぎる。相談は最後にまわされてしまう。午前中から実施できるとよい。 ・受診の待ち時間に子どもたちが一緒に居られると関わり合いの中で何かわかることもあると思う。	・健診の実施時間については、診察を依頼している川越市医師会との調整等、課題が多く、現在の受付時間（13:10～14:00）となっている。午前中の実施等は困難である。 ・視力検査については、家庭内検査を行ったができなかったという幼児について、会場で再検査を行っている。また、家庭内検査の結果により、視力や発達の問題がありそうな幼児についても、医療機関の情報提供や心理相談へつなぐ等対応している。 ・健診の中で、他の幼児との関わり具合を確認するのは、健診時間がさらに長くなること、会場のスペースの問題、いつもと異なった環境のなかで、日頃の児の様子が確認できるか等、問題もある。児の様子等わかることもあるとは思うが、健診の流れに盛り込むことは適切とは判断しにくい。
8	フッ化物塗布・洗口事業	健康づくり支援課	・公立保育園が対象になっているが、効果があるのであれば事業を拡大すべきであるし、効果がなければ廃止を考えることも必要。どの程度の効果があるのか数字等があれば知りたい。	平成20年度に、4歳から5歳にフッ化物洗口を実施した5園の児童の口腔内の状況をカリオスタット検査によって測定した結果、虫歯になりやすい状態からなりにくい状態に改善した割合が、52.1%、変化なしが19.8%、悪化したが10.4%、比較できなったが17.7%。効果はあると考えている。 今後の事業実施について、現在、川越市歯科医師会等と検討中。

5	母乳育児相談	健康づくり支援課	・終了した事業で現在の対応も記載してあるが、平成２１年度末の状態を考えると新たな制度への橋渡しとかを補足してほしいと思う。 ・「専門職がよいという妊婦の要望」とあるが、実際何人に言われたのか。 ・平成２０年、２１年の評価はない。前期５年間の総括としては次のものに引き継いでうまくいっているとかの内容があるとよい。	・平成18年8月～19年６月に実施した保健推進員による妊婦訪問に関するアンケート結果によると、妊婦訪問に不満と答えた方の具体的な意見として、「看護師、助産師が訪問してくれると思った」「特に情報として得るものはなかった」「資格がないので答えられない」「詳しくは保健センターにと言われた」「近所の人なので気まずかった」などの回答があった。人数までは、把握していない。 ・母乳育児相談については、事業終了後から、産婦・新生児訪問指導で助産師が相談に対応し、4か月児健診でも助産師の母乳相談を実施している。また、電話相談を担当している助産師が、その状況により、電話もしくは、面接で母乳に関する相談に対応している。その他に、、毎年、市内の出産機能を持つ医療機関、川越地区助産師会、産婦・新生児訪問指導担当助産師等をメンバーとして母子保健連絡調整会議を開催しており、その中で、各機関での母乳育児に関する対応等について、情報交換を行っている。各機関の情報によると、母乳相談・指導について、各医療機関での相談体制も年々充実されてきている。今後も、産婦が必要な時に一番相談しやすいところで母乳に関する相談が受けられるよう、各関係機関と連携を深めながら、対応していく。 ・妊婦に関する支援についても、若年妊婦、妊娠後期届け出妊婦については、地区担当の保健師が個々に対応している。また、上記会議等を活用して、各医療機関とも日頃から連携を密にしているので、気になる妊婦については連絡を取り合い、支援している。
10	保健推進員による妊婦訪問			
15	母親学級・両親学級	健康づくり支援課	・データとして父、母と統計をとっているのであればそれぞれの参加状況や、特色について知りたい。	平成21年度の参加人数は、316人中162人が妊婦、154人が夫。参加者のほとんどが、夫婦での参加で申込んでいる。 教室の特色としては、育児に関する内容のほかに、父親の育児参加や、出産後のマタニティブルーについて話し、母親のメンタル面の不安定さについて、夫が理解し、支えることの大切さを伝えている。また、栄養士・歯科衛生士が講師となって、妊婦、家族の食事（栄養）、赤ちゃんの歯の手入れとあわせて、歯周病や予防についての講義・演習を取り入れている。
21	離乳食教室	健康づくり支援課	・参加者数からみると1回２０名定員であると思うが、希望して受けられない人がどのくらいいるのか。 ・食育の観点から考えて実施してもらいたい。 ・無知でいる人がほとんどであると思うが、希望者に対してどのくらいの割合で増やしたいのか。 ・申し込みについて、出生届提出時に講座の申込書を入れるなど工夫してもらいたい。 ・民間で実施しているから、行政で実施しないということであれば行政としての役割を果たしていない。	1回の教室の定員は40名であり、申込み多数によりお断りしたということは、これまでにない。 今年度は、4か月児健診時の栄養に関する集団指導の中で、離乳食教室についての案内をし、受講を呼びかけている。 民間の業者等による教室の開催があるらしいことは聞いているが、市としては、そちらとは関係なく、今後も継続して行っていくつもりである。また個々の状況に合わせて離乳食が進めていけるよう、乳児相談、電話相談、家庭訪問等の場で相談対応している。

１－（２）「食育」の推進

No.	事業名	所管課	地域協議会からの意見	所管課の回答・意見
1	幼稚園・保育園等における指導	保育課	・公立保育園は20園あり、私立保育園は13園から17園に増設されることになり数としては公立と私立では同じくらいであるのに、なぜ私立では対象外になっているのか。 ・生まれた時からちゃんとした知識を着実に少しずつ植えつけることが大事である。 ・食育と食べることが切り離されてしまっている。意識の問題が一つのネックになっている。 ・保育園では行事食が献立に載っていないことがあるが、食育の観点から行事食の意味は大きく、食について伝えられるきっかけにもなる。	保育園における食育につきましては、保育所保育のガイドラインである「保育所保育指針」の中に位置付けられており、公立・私立に係わらず保育の一環として行なっております。しかし、私立保育園の場合、食育の内容がそれぞれの園で特色があり、また多岐にわたったものとなっているため、広く一般にご紹介出来ていなかったため、対象外の様にお感じになられたのではないかと思います。 食育基本法の制定、保育所保育指針の改定、川越市食育推進計画の策定などにより、保育園での食育の重要性が更に高まった事から、食育をより計画的・効果的に推進していくため、現在「川越市保育所食育計画（案）」を作成しております。この計画（案）が完成した折には、保育園や保護者に知らせするとともに、地域協議会のご意見を参考とし、食に係わる人々等地域の方々のご協力も得ながら、本当の意味での「食を営む力」の育成となる食育を推進していきたいと考えます。
2	小・中学校への指導	学校給食課	・食育と食べることが切り離されてしまっている。意識の問題が一つのネックになっている。また、小中学校では「残菜」が相当量出ていると聞くが、これについてどのように考えているのか。 ・食育計画には安全な食材の供給とあるが、安全とは何かは記載されていない。情報発信とかに偏って内実を載せていないのではないか。 ・どのようなことを実施しているのか具体的な内容を知りたい。	・食に結びついた食育を推進するため、学校・家庭・地域との連携をより深めていきたい。また、児童生徒の嗜好に合わせるだけでなく、伝えていきたい料理や食材については継続して提供していきたい。 ・児童生徒が安心して食べることかできる食材の確保は学校給食の基本であるため、食材の原料や生産地、添加物や残留農薬など基準に合った安全管理がされているか等の確認を実施しているところです。 ・川越市は都市近郊でありながら農産物の生産が盛んであるため、川越産の食材を学校給食に摂り入れ、食育に結びつけているところです。
3	地域の特色を活かした「食育」の実践活動			
7	地域活動栄養士会との協働	健康づくり支援課	・どのようなことを実施しているのか内容を知りたい。	川越市と地域活動栄養士会（PFCの会）の共催で、教室を実施。教室名は「たのしい食育」、年間4回開催。内容は、1歳6か月～4歳未満の子と保護者を対象に、食事バランスの講話や、お弁当箱に料理を詰めて試食する等。この教室を通して、バランスのとれた食事についてを親子で体験しながら学ぶ。

１－（3）思春期保健対策の充実

No.	事業名	所管課	地域協議会からの意見	所管課の回答・意見
2	思春期保健相談	保健予防課 健康づくり支援課	・出前講座はいいと思うが、はたして時々来る人に悩みを打ち明けるのか。 ・今いる先生達を窓口にして使うと良いと思う。 ・子どもたちのたまり場にいないと意味がない。悩みの年頃であるのに相談件数は少ないと感じる。	・主に性感染症の予防啓発を中心に出前講座を実施してまいりました。受講した生徒からは、「性感染症は身近な問題で一人で抱えこまず相談することが大切とわかった」等の感想が多く聞かれ、相談することへの第一歩につながっています。 思春期の保健相談として、随時電話での相談に対応した。実績がほとんどないので、PR方法を考えていきたい。出向くことはしなくても、顔が見えない電話相談だから、話せる場合もあるのではないか。電話相談以外での実施方法については、充分検討いたします。
3	子育て体験学習	健康づくり支援課	・未実施で終わっているが、今後の方向性等をききたい。	後期計画では、市と民間の協働事業として進めている。中学校3年生を対象に22校中、特別支援学校を含めて9校の希望があった。予算の関係がありその内7校で実施した。時期は9月後半～11月中旬で、実際に赤ちゃんとお母さんに学校に出向いてもらう形で実施したがとても盛況であった。実施校の校長先生は普段は勉強しないような生徒が赤ちゃんと触れ合って笑顔だった様子を見て驚いていたりした。来年度についても子育て支援課で予算化し継続して実施していきたいと思っている。
4	中学生の健康教育	健康づくり支援課	・C評価であり、後期計画においても「依頼により」と同じことを言っている。後期計画については新しい戦略があるのか。PRしていかないと依頼自体がないのではないか。	後期計画では、「思春期健康教育」と事業名を改め、主に保健予防課が行う思春期保健講座を中心とした事業実施を考えている。健康づくり支援課では、養護学校への出前講座を毎年行っています。

基本目標2：心身の健やかな成長に資する教育環境づくりの推進

２－（2） 子どもの生きる力の育成に向けた教育環境等の整備

No.	事業名	所管課	地域協議会からの意見	所管課の回答
4	川越市さわやか相談員配置事業	教育センター	・自己開示ができるようになったのであるなら人数を増やすことも必要。	さわやか相談員は、埼玉県からの学校教育に係る市町村総合助成金の助成を受け、市内22校すべての中学校に、週5日配置しております。さわやか相談員は、生徒一人一人との人間関係を大切にし、信頼関係を築きながら相談活動にあたっております。また、スクールカウンセラーとの連携を図りながら、より専門的な見地からのアドバイスが必要なケースにも対応しております。今後も、児童生徒一人一人への関わりを大切にしながら、相談活動を進めてまいります。
9	指導方法の工夫改善、少人数学級	教育指導課 学校管理課	・1クラスの人数が3、4人の差でも雰囲気はまったく違う。30名くらいにした方がよい。 ・加配教員を配置してどのように工夫してどのように内容が変わったのか。 ・来年度以降については何もしないでa評価では困る。	・学級編制は、法に基づき1学級あたりの人数が定められておりますので、ご理解願いたいと存じます。また、国では、次年度小学校1学年で1学級あたり35人に下げること、さらに、弾力的な扱いについても検討をしているということでございます。今後も、国や県の動向を見ながら研究して参ります。 ・学校によって加配数は違いますが、それぞれの学校が、児童生徒の学力の実態等を把握し、効果的な活用が図れるよう、加配教員や担任（中学校では教科担任）、また学校全体で、授業形態や学習の進め方など工夫改善し、児童生徒一人一人に対してきめ細かな指導を行い、学級や学年・学校全体の学力向上等に成果が出ております。 ・国や県の動向を見ながら、本市としての少人数学級編制や臨時講師の配置につきまして、さらに研究を重ねて参ります。また、少人数指導の一層効果的な活用につきましても、研究を進めて参ります。
25	幼保小連絡懇談会の実施	教育指導課	・回数が年1回では補えないのではないか。 ・交流がないまま実践報告では意味がないので、もっと情報発信をする時間がほしい。	・平成23年度から、8月に実施している「子どものよりよい成長を考える研修会」においても、情報交換・意見交換を行う場を設定する予定です。

２－（3） 家庭や地域の教育力の向上

No.	事業名	所管課	地域協議会からの意見	所管課の回答・意見
10	学生ボランティアの活用	地域教育支援課	・何をしようとして、何が目標で、何が課題であるか、内容がわからない。	子どもサポート事業その他において、子どもたちに豊かな体験をさせるために市内大学の大学生等に活動支援をしてもらう。ボランティアとして参加してもらえる人材の確保が課題である。